

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「鍛える」「見守る」「高める」をキーワードに、「知・徳・体」のバランスの取れた人材、将来において社会で自立できる人材、社会に貢献できる人材を育成するというコンセプトのもと、次の4点を本校のめざす学校像とする。

- 1 すべての生徒の学力を3年間でより一層向上させ、進路希望を実現する学校
- 2 生徒一人ひとりが充実した学校生活を送り、「行って良かった」と思える学校
- 3 保護者・地域等と連携し、共に生徒の主体的成長を積極的にサポートする学校
- 4 学校教育目標の達成に向け、教職員が一丸となって日々の教育活動に組織的に取り組む学校

※「鍛える」：生徒の頭（学力）、体（体力）、心（精神）を鍛える。「見守る」：生徒の自主的、自発的な活動を見守る。「高める」：感性、人間性、社会性、人権感覚、国際感覚を高める。

2 中期的目標

1 学力・進学保障—生徒のモチベーションを向上させ、学力の向上と進路目標の実現を図る。

(1) 教志コース（教員養成系コース）を充実、発展させる。

ア 1年生を対象にしたコースのガイダンスの充実を図り、生徒一人ひとりが将来の進路を見据えてコースを正しく選択できるようにきめ細かい指導を確立する。

イ 2年生の「教志入門」の内容を充実させるとともに、効果的な運営方法を確立する。

ウ コース生が講義記録と報告、実地実習の記録と報告、レポート課題等の作成やリーダー実践を主体的に行うことにより、進学意欲や情報活用能力の向上を図るとともに、学習内容や学習評価の合理化、効率化、適正化を図る。

エ 3年生の「授業研究」の充実を図る。

※ 進路実現の一環として、大阪教育大学・育成プログラム「教師にまっすぐ」の受講及び学校推薦型選抜(特別枠)の受験を促進する。

(2) 3年間の計画的な取り組みを通して、学力向上・進路目標の実現を図る。

ア Advance 講座・Basic 講座や講演会等の進路関連行事の充実を図り、生徒に明確な進路目標を立てさせ、その実現に向けて取り組ませる。

イ GIGA スクール構想により整備された無線 LAN(Wi-Fi)のアクセスポイントの活用と1人1台端末の効果的な使用方法の研究に努め、ICT を積極的に活用した授業改善を推し進め、「見てわかる授業」「板書時間の削減」「机間巡視による個別指導の増加」「対話的授業」に取り組むことで授業の効率化を図り、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。同時に授業外での1人1台端末活用を促進し、授業以外の自主的な学習時間を増加させることで学力の向上につなげる。

※ 学校教育自己診断(生徒)において、平日の授業以外の学習時間を令和6年度は1年生65分以上、2年生70分以上、3年生180分以上とする。

(R1:1年生54分、2年生56分、3年生171分、R2:59分、62分、174分、R3:59分、61分、177分)

※ 学校教育自己診断(教員)において、「ICTを活用した授業により、授業力の向上につなげた。」を90%以上とする。

(R1:64%、R2:75%、R3:85%)

※ 大学進学において、関関同立、国公立大学の合格総数を令和6年度は130人、10人以上にする。

(R1:89人、7人、R2:154人、8人、R3:110人、2人)

2 学校生活—規範意識の高揚を図り、安全・安心な学校生活を送ることのできる環境を作る。

(1) 規範意識の高揚を図る。：遅刻、服装、頭髪、装飾品、自転車乗車マナー 等

(2) 人権学習の計画的な実施により人権意識の高揚を図るとともに、安全・安心で意欲的な学校生活を推進する。

：挨拶指導、清掃の徹底、環境(学習・生活)整備、高いレベルでの文武両道(学校行事・部活動の推進)、障がい者差別の解消、ネットリテラシーの習得、他者を尊重する心の育成、いじめを起こさせない環境作り 等

(3) 学校行事等の取り組みで生徒の主体化を図る。

(4) 総合的な探究 LHR において、人権学習等を計画的に実施し、安全で安心な学校づくり、人権意識の高揚を図る。

※ 学校教育自己診断(生徒)において、「学校に行くのが楽しい」の肯定的回答を令和6年度は90%以上とする。(R1:81%、R2:86%、R3:87%)

3 学校運営—プロとしての教員集団を組織化し、地域の教育資源を最大限に生かしながら、機動力のある学校運営を行う。

(1) 実務提要管理—電子データ化された実務提要(学校内規)の管理及び見直し体制を構築する。

(2) ICTの積極的活用—校務処理システムと校内LANを最大限活用して生徒情報総合システムを構築し、校務運営の効率化を図る。

(3) 新任・経験年数の少ない教員に研修とともに、地域の小中学校などの授業参観の機会を設け、授業力の向上を図る。

(4) 教志コースの充実、教科教育力の向上を視野に入れた施設設備・教材教具の改善と充実を図る。

(5) 地域連携の取組の定着・推進—地域行事や八中校区地域教育協議会への参画、北高アカデミアの実施等を通して、地域からの信頼を一層高める。

※ それぞれの取組を継続するとともに、各取組の内容の充実を図る。

※ 北高アカデミアの参加者満足度について、令和6年度は95%以上を維持する。(R1:98%、R2・R3:コロナ禍で未実施)

4 広報—常に情報発信に努め、保護者・地域から信頼された、開かれた学校づくりを推進する。

(1) 広報活動の強化—学校説明会・ホームページ・メールマガジン・校長通信・バナー広告掲載等を通して、本校の取組及び連携機関の周知を図る。

(2) アドミッションポリシーの周知を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学力・進学保障】</p> <p>・ICT機器を活用した授業は定着しているが、1人1台端末の有効活用については、学年とともに肯定的回答率が低下している。学習内容の定着のために有効活用ができ授業改革の必要性がある。スマホ利用時間の増加については、本校だけでは解決できない問題であるともいえる。</p> <p>【学校生活】</p> <p>・毎日の指導により、自転車運転のマナー、挨拶に対する意識は向上しているが、生徒の事故防止も含め継続的な課題である。</p> <p>・部活動では多くの成果が出ているが、加入率や満足度は伸びていない。コロナ禍の影響があると思われるが、より魅了を感じる活動にしていく必要がある。また、満足度については、未加入者は否定的回答となるので、次年度からは問い方を変更する。</p>	<p>第1回(令和4年7月8日開催)</p> <p>・10年を迎えた教志コースとして、教職について卒業生の実績を公開すべき。</p> <p>・「教志入門」の講義担当者として、教志コースの趣旨を理解している学校運営協議会委員に依頼してはどうか。</p> <p>・基礎学力の向上のためにも「宿題」を出し、予習・復習が進むように指導すべき。</p> <p>・受験傾向として無難な大学の受験を選択して見受けられる。可能性があれば チャレンジしてほしい。</p> <p>第2回(令和4年11月25日開催)</p> <p>・生徒はコロナ禍で抑圧されて高校生活を送っている。できる限り、学校行事を行っていただきたい。</p> <p>・アドミッションポリシーに関する調査を1年の7月に行うのは適当な時期だと思う。</p> <p>・会議のペーパーレス化等、ICTの向上には目を見張るものがある。</p> <p>・スマホの使用の問題については、何らかの手を打つ必要があるのではないかと感じている。</p> <p>第3回(令和5年1月20日開催)</p>

府立高槻北高等学校

<p>【学校運営】 ・「教職員で日常的に話し合っている。」肯定的回答率が低下しているが、多忙感が原因と考えられる。実行性のある働き方改革の推進が必要である。</p>	<p>・学校教育自己診断(生徒)の2年生の回答率が他学年と比べて低い、回答率が高まるよう工夫・指導すべき。 ・人数を評価指標としている項目については、学級数が減ることから、割合等にすることが経年比較をしやすい。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 学力・進学保障	(1) 教志コースの充実	(1) ア 2年生設置科目「教志入門」のさらなる充実を図る。 ・教育課題についての理解を深める ・新規講師の招聘及び講師との入念な打ち合わせ ・実地実習の事前及び事後指導の充実 ・連携大学のキャンパス訪問 イ 大阪教育大・「教師にまっすぐ」の受講促進 大阪教育大・学校推薦型選抜(特別枠)の受験促進	(1) ア コース2年生アンケートの取組満足度：90%以上維持 [96%] イ 「教師にまっすぐ」の受講者：3名以上[4名] 大阪教育大・学校推薦型選抜(特別枠)の受験：1名以上[1名]	(1) ア 満足度 100% (◎) 2年「教志入門」の内容充実による イ 受講者6名 (◎) 受験者0名 (△)
	(2) 生徒の学力向上と進路目標の実現	(2) ア オンラインを含め ICT を活用した授業の充実を図り、思考力、判断力、表現力の向上につなげる。 イ 授業の相互見学制度(ハディシステム)・教科ごとに研究授業を行い、教科教育力の向上を図る。 ウ 希望進路の実現を常に意識させ、授業以外の学習を充実させる。 ・各種検定(漢検・数検・英検等)の受検促進 ・Advance 講座・Basic 講座の充実 ・丁寧な科目・コース選択説明会の実施 ・進路分野別説明会・進路講演会の実施 エ 新入生への図書館利活用ガイダンスを充実させ、読書活動を推進する。 ・新入生オリエンテーション時の図書館利用方法を周知 ・映像化作品の導入 ・図書委員による「図書だより」の発行 ・PTA図書充実費の利用	(2) ア 学校教育自己診断(生徒)において、ICT機器の活用：95%以上維持 [97%] イ 相互見学実施：100%、研究公開授業実施：1回以上 [94%][1回] 授業アンケート質問 89 の肯定的回答率：85%以上維持 [86%] ウ 学校教育自己診断(生徒)において、平日の授業以外の学習時間：各学年ともに昨年度以上 [1年 59分、2年 61分、3年 177分] 大学入学共通テスト出願者 170 人以上[166人] 進学実績として関関同立、国公立大学への合格総数：それぞれ 120人, 7人以上 [110人, 2人] 各種検定への延べ参加率：30%以上維持 [38%] エ 図書館利用数(書籍貸出数)：600冊以上[698冊]	(2) ア ICT機器の活用 97% (○) イ 相互見学 100%実施 (○) 研究授業 全教科 1回 (○) 授業満足度 86% (○) ウ 平日の家庭学習時間 (△) 1年 60分、2年 52分 3年 165分 コロナによる行動制限の緩和による部活動等の活動時間の増加 出願者 138名(△) 生徒・保護者の安全志向により、推薦入試による私大希望者の増加 関関同立 119人(○) 国公立 5人(△) 生徒の安全志向と共通テスト離れのため 各種検定 38% (○) エ 貸出 275冊(△) 生徒の書籍離れが進んでいる中、諸事情により年度当初に開館できない日が多かったため
2 学校生活	(1) 規範意識の高揚	(1) ア 身だしなみマナー向上週間を実施し、制服の着こなしについて指導を行うとともに遅刻者を減少させる。 イ 登下校時の交通安全指導の継続、警察及び安全協会と連携し安全講習会を開催する。 ウ 生徒に啓発ポスターを作成させることにより、携帯電話使用のマナー指導及び啓発活動を発展継続させる。 エ 部活動・学校行事を主体的に取り組む工夫をする。	(1) ア 1日の平均遅刻者数を昨年度以下[5.9人] イ 学校教育自己診断(生徒)において、自転車の運転マナー意識の向上：90%以上維持[95%] 自転車事故での保健室利用：昨年度以下[39件] ウ 携帯電話の指導件数：昨年度以下 [60件] エ 学校教育自己診断(生徒)において、部活動・学校行事が工夫されていると思う：85%以上 [部活動 83%、学校行事 91%] 学校行事を主体的に取り組んだ：90%以上維持[91%]	(1) ア 7.1人 (△) ギリギリの時間に登校する生徒、特に3年生が増加している状況。 イ 96% (○) 毎朝の登校指導の効果による。 保健室利用 47件 (△) 残念ながら、件数は増加しているが、重大事故は起こっていない。 ウ 69件 (△) 1年が2/3近くを占めているが、より厳格に指導した結果による。 エ 部活動工夫 77% (△) コロナ禍、自己診断実施時の体育館空調工事が影響したと思われる。 学校行事工夫 92% (○) 主体的に取り組む 92% (○)
	(2) 安全・安心で意欲的な学校生活の推進	(2) ア 清掃活動の徹底及び安全点検を定期的に行うとともに施設・設備の改善を図ることで学習環境を整える。 イ 生徒が率先して挨拶ができるよう、教職員が率先垂範して積極的に挨拶を励行する。 ウ 外部講師を招聘し、新入生にネットリテラシーの講習会を実施する。 エ 文化祭時にビデオ上映を行い、献血の意識を高める。 オ 新入生歓迎会を充実させ、部活動の加入率及び満足度を高める工夫を行う。 カ 教職員の救急講習会に全員が参加する。 キ 新型コロナウイルス感染症対策を継続しながら教育活動を行う。PCR検査受検等緊急連絡用のメールアドレスの管理及び生徒・保護者への周知を徹底する。	(2) ア～エは、学校教育自己診断(生徒)において、 ア 学習環境の満足度：80%以上維持 [85%] 施設・設備の改善認識：80%以上 [76%] 清掃活動や環境整備への取り組み：80%以上維持 [86%] イ 挨拶をしている生徒：80%以上維持[83%] ウ SNS上でのトラブルを0とする。[新規] エ 献血意義の認識：90%以上 [88%] オ 加入率及び満足度：80%以上 [82%、74%] カ 職員救急講習参加率：90%以上維持 [91%] キ メールアドレス周知文書の配付：3回以上[7回]	(2) ア 環境満足度 85% (○) 改善認識 82% (○) 生徒取組 86% (○) イ 86% (○) 生徒による「あいさつ運動」の効果 ウ 0件 (○) エ 85% (△) 文化祭で予定していた啓蒙映画の上映ができなかった影響 オ 加入率 79% (△) 満足度 74% (△) 未加入者も回答しているために、満足度は低い結果となったと思われる。次年度は問い方を変更予定。 カ 92% (○) キ 4回 (○)

府立高槻北高等学校

3 学校運営	<p>(1) 学校力の向上</p> <p>(2) 教師力の向上</p> <p>(3) 地域連携</p>	<p>(1)</p> <p>ア 実務提要(学校内規)を効果的に活用する。</p> <p>イ 分掌業務等で適切な改善・引き継ぎ方法を策定する。</p> <p>ウ 校務処理システムを活用し、校務運営を効率化する。</p> <p>エ ICT 機器を活用して、授業内容の効率化及びデータの共有化を積極的に推進する。</p> <p>オ 一斉退庁日及び部活動方針を周知する。分掌ごとのワークの見直しを行い、教員の勤務時間の削減及び効率化を図る。</p> <p>カ 生徒最終下校時刻の遵守、教員日直業務の見直し、職員会議ペーパーレス化により、勤務時間の削減を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア 経験年数の少ない教員の校内研修等を充実させる。</p> <p>イ 相互授業見学、研究公開授業と連動させた教職員研修を実施する。</p> <p>(3)</p> <p>ア 地域行事への参画、北高アカデメイアの実施等を通して、地域からの信頼を一層高める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア～エは、学校教育自己診断(教員)において、</p> <p>ア 利用割合：昨年度以上 [46%]</p> <p>イ 適切な改善・引き継ぎの実施：85%以上維持[92%]</p> <p>ウ 校務処理システムの活用：85%以上 [83%]</p> <p>エ ICT 機器の活用による授業内容の効率化及びデータの共有化：それぞれ 80%以上[81%, 79%]</p> <p>オ 教員一人当たりの月平均時間外勤務時間：昨年度以下 [41 時間 10 分]</p> <p>カ 一斉退庁日の 19 時以降勤務者：昨年度以下[389 人]</p> <p>(2)</p> <p>学校教育自己診断(教員)において、</p> <p>ア 経験年数の少ない教員の満足度：昨年度以上 [79%]</p> <p>イ 研修による授業改善の必要性理解：70%以上 [67%]</p> <p>(3)</p> <p>ア 北高アカデメイア参加者満足度：95%以上 [未]</p>	<p>(1)</p> <p>ア 44% (△)</p> <p>イ 87% (○)</p> <p>ウ 88% (◎)</p> <p>エ 83% (○)、75% (△)</p> <p>オ 40 時間 59 分 (○)</p> <p>カ 388 人 (○)</p> <p>(2)</p> <p>ア 満足度 77% (△)</p> <p>イ 必要性理解 60% (△)</p> <p>コロナ禍、新カリ・観点別学習状況の評価等による多忙による影響と思われる。</p> <p>(3)</p> <p>ア 97% (○)</p>
4 広報	<p>(1) 広報活動の強化</p>	<p>(1)</p> <p>ア 本校の教育内容及び連携機関の周知を図る。学校説明会の充実(生徒が参加、活躍する。)</p> <p>ホームページの更新、内容の充実</p> <p>メールマガジンの配信</p> <p>校長通信の発信</p> <p>バナー広告の契約数維持</p> <p>イ 地域中学校、教育産業への訪問、広報を強化し、アドミッションポリシーを周知する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校説明会 参加者満足度 95%以上を維持[99%]</p> <p>ホームページ更新 : 30 回以上維持 [36 回]</p> <p>アクセス数 : 6 万回以上維持 [94906 回]</p> <p>メールマガジン配信 : 40 回以上維持 [70 回]</p> <p>校長通信発信 : 80 回以上維持 [86 回]</p> <p>バナー広告契約数 : 3 件維持 [3 件]</p> <p>イ 7 月実施の学校教育自己診断(生徒)において、読んだことがある 1 年生 : 80%以上 [新規]</p>	<p>(1)</p> <p>ア 説明会満足度 100% (◎)</p> <p>HP 更新回数 32 回 (○)</p> <p>アクセス数 59102 回 (△)</p> <p>メールマガジン配信 33 回 (△)</p> <p>googleclassroom の活用の増加による。</p> <p>校長通信 107 回 (◎)</p> <p>バナー広告 3 件 (○)</p> <p>イ 89% (◎)</p>